津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表3111番）
編集　編集委員会
印刷所　旭印刷所
電話（水俣）③4101番

国際児童年1979

国際児童年記念「熊本県少年の船」
いってきました!!

東南植物園を見学する団員達

珊瑚礁のかなたに、紺碧の海にかこまれた太陽の島、沖縄がある。

情熱の花、ハイビスカスが咲き誇り、南国の空はどこまでも澄みきっている。

琉球古来の伝統を秘める史跡と郷愁さそう三味線の音、そして戦争の激しさを物語る数々の戦跡、詩情豊かな風俗をもつ沖縄……。

今回、国際児童年を記念して「熊本県少年の船」が八月二日から六日までの日程で実施され、沖縄県を訪ずれました。津奈木町からは各小中学校から五十四名の応募があり、県で抽選の結果、偶然にも津奈木小学校生徒だけになり、新立和輝君・柳迫信也君（大泊）深水美由理さん（町中）の三名が決まりました。

それに町中の中島晴美さんと内野の林田和幸両名が班長として参加しました。

参加者は、沢田知事を団長として団員小中学生六百名と班長四〇名、その他事務職員など、合わせて総勢六六三名の大所帯にふくれ上りました。

チャーター船"なは丸"（五千トン）での船内学習、沖縄県糸満小中学生との楽しい交歓会。戦跡や植物園、海洋博公園等の見学など肥後っ子達が体験活動を行いました。

ここで、エメラルドグリーンの海から、トウキビ畑のなから少年少女の感じたそのままを特集してみました。

平和とはほんとうにすばらしい

津小五年　深水美由理

多くの人の中から選ばれ、不安と喜びを感じながら、出発の日をむかえました。

でも不安は船中第一日にしてなくなりました。同じ熊本県の友ばかり、それぞれの方言で思いのままに語り合うことができ、船よいに少しなやませられながら目的の沖縄に無事つくことができました。

すばらしい歓迎式、糸満小学校のお友だちとの交歓会、琉球のおどりのすばらしさ、おどりをした子供のうつくしさにみとれました。そのあと平和記念公園の「火の国の塔」におまいりし、天草の砂、千羽づるをささげました。

私はここで戦争のおそろしさを知らされました。沖縄は第二次世界大戦で最後の激戦地となり多くの人が死にました。沖縄の人々は「二度と戦争はおこしたくない」と願っています。ひめゆり部たいの最後の話をガイドさんから聞きました。本当にかわいそうなことだと思います。

三日目は、東南植物園の色々な花や昆虫を見たり、すばらしい色の海で泳ぐことができ、たくさんの友ができました。班長のお兄さんお姉さんのきびしく、そしてやさしい心にもふれ、本当にすばらしい体験でした。

サンゴの砂

津小六年　新立和輝

八月三日十時、まちどおしかった沖縄についた。

那覇市は思ったよりビルが多くビックリした。バス十二台に分乗して糸満小学校に着き交歓会があり、方言を教えてもらった。ネズミのことを「チャーマン」と言うそうだ。

それから戦跡を見学した。ひめゆりの塔、火の国の塔では熊本県の砂やお水をまきました。

ホテルに帰る途中、バナナの木やパパイヤの木があり、それぞれたくさんの実がなっていました。僕は木になっているバナナなどは、はじめて見たのでとてもうれしかった。

ホテルから見る夜景は美しく、英語のネオンが多く見られました。夜は学習会があり、誰もが真けんにやっていました。四日の日は海洋博記念公園に行き、エメラルドビーチで泳ぎました。砂は一面サンゴがくだけて真白で、とてもきれいで津奈木の海岸とはくらべものになりませんでした。

帰りは船の中で一晩を過し、鹿児島から汽車で帰り、水俣駅には妹とお母さんが来ていました。お世話になった人におみやげをくばり、沖縄のできごとを話し、みんなからよろこんでもらいました。

へんな読み方

津小五年　柳迫信也

ぼくは、八月二日から「少年の船」で選ばれた六百人の人と一緒に沖縄県に行きました。三角港から出発して、二十三時間も船にゆられ酔おうとする気持をおさえて三日の朝やっと沖縄に着きました。

バスガイドさんのお話し

その話の中に方言がありましたので紹介します。

「**城**」というかん字を『**ぐすく**』と言うそうです。その他に「**勢理客**」を『**いっちゃく**』と読みます。また、「**大工廻**」を『**だくぢゃく**』と読むそうです。あと一つは「**今帰伝**」というかん字を『**なきしん**』と読むそうです。その時ぼくは、沖縄はへんな読み方をするなーと思いました。

戦争の時、沖縄は木一本も無いようになったそうです。でも、良くここまでやってきたなーと友達と話し合いました。

沖縄の車の台数は三十一万台、人口百七万人です。県庁のある那覇市の人口は二十九万人だそうです。

最後に、沖縄の屋根瓦に良く見かけるネコ（シーサー）のようなものがあります。それは口を開けたのとしめたのがあります。口を開けているのは神様を迎え、口をとじている方は神様をにがさない役目をしているそうです。

作品募集

町民みな芸術家
津奈木町文化展のお知らせ

津奈木町農業就業改善センターが完成し、すでに各種会合、研修が行なわれています。今後は文化の殿堂としても大いに利用していただくために、落成記念の文化展を開催することになりました。

町内在住者はもちろん、津奈木町に勤務する人、津奈木町出身者の作品を募集いたします。ふるってご応募ください。

一とき　昭和54年11月3日・4日。

二ところ　津奈木町農業就業改善センター

三作品　◎絵画（版画、デザインを含む）
◎書◎写真（四ツ切）
◎菊（鉢植）

四作品受付　11月1日（9～17時）
於改善センター

五その他　出品希望者は、なるべく事前に申し出てください。連絡、問い合せは、津奈木町教育委員会へ（電話311）

な～るほど
＊からがよくむけるゆで卵の煮方

ゆで卵を失敗するとカラがうまくむけなくなってしまいます。

これを防ぐには卵の丸い方の先端に牛乳の栓ぬきで小さな穴をいくつかあけてゆでます。あるいはゆでるとき、湯に塩と酢を少量入れておいてゆでます。どちらの方法でもゆで上ったらすぐに水に入れて冷やすこと。

卒業記念

赤崎小学校では、昭和五十三年度卒業の六年生十八名が田中祥之先生の指導のもとに海の学校を象徴して、魚の型を作成し通学路の法（のり）に立てた。

津奈木中学校の卒業生は、体育館に時計の寄贈を行った。

町民の方にお願い
歴史上の資料集めに是非ご協力を！

今年の七月の大雨で、浜崎の松本武良さん宅裏の崖が崩れ、多数の貝殻にまじって、土器や石斧など沢山出て来ました。

また八月二十日には、自衛隊の採土現場で山を堀抜いた排水用らしい隧道が発見されました。

これ等はみな、津奈木の歴史を調べる上で、貴重な資料となります。

そういえば、あんなもの、こんなものは、歴史上の資料になるかも知れないと、思い当られるものがあるかも知れません。若しそういうものがございましたら、大小にかかわらず是非教育委員会に御連絡の程願い上げます。

例えば、矢じり、石斧、土器のかけら、古い文書、塚、古墳、遺跡、貝塚。言い伝え等。

平国小学校校舎建設始まる

平国小学校建設委員会の役員の方々を先頭に、校区の皆さんの熱意と、地権者並びに墓地所有者各位の積極的な御協力により、その用地も滞りなく買収、昨年（昭和五十三年）梅雨明けを待って始められた平国小学校用地工事（工費一億三千九百万円）も、請負業者――津奈木建設企業体（代表野崎強氏）の総力を挙げての努力によって、通学道路新設工事（二千三百七万円）校域外排水路築造工事（八百万円）と併せ、この程、工期中全くの無事故で完成、いよいよ校舎の新築工事が始まった。

校舎の新築工事は、本年七月三日、八代市の藤永組が一億九千六百八拾万円で落札し、直ちに着工した。校舎は来年三月完工の予定である。

平国は、学童は勿論、地元民一同、その日の一日も早からんことを待望している今日此の頃である。

御寄贈ありがとうございます

このほど、左記のとおり、公民館に対し、図書の御寄贈がありました。ここにご厚意を謝し御披露申し上げます。

記

一書名

㈠竹熊宜孝著
（公立菊地養生園診療所々長）
「土からの医学」

㈡佐藤千里著
「随筆集　綾の無か」

二寄贈者

㈠　緒方貞代氏

㈡　佐藤千里氏

緒方貞代さんは、熊本県三角町で生れ、沖縄で教壇に立ち、結婚後上京、婦人解放運動の先駆者として活躍された人、現在八十五才。

竹熊先生の「土からの医療」に共鳴され御寄贈になったもの。

佐藤千里さんは、現在水俣市洗切町の「佐藤病院」の院長さんで、本の表題「綾の無か」は「あやんなか」の意とか。

青年女子バレークラブを県が表彰

年間通してのスポーツ活動に対して

林田和幸監督以下バレークラブのメンバー

県知事より代表野崎貴保子さんへ

昭和五十四年度体力つくり運動推進県民大会が九月十二日県庁で開催されました。

各市町村長ほか体育団体らが多数集る中で、体力つくり県民会議々長の沢田知事より県内のスポーツ優良団体に表彰状が贈られました。

本町では永年、年間を通してスポーツ活動をしている連合青年団の女子バレーボールクラブに贈られました。

このクラブは先輩や林田和幸監督、今年からコーチをしている柳迫広君らの指導により、対外試合の成績も郡や県に大きな実績を残しています。

文化活動も大変熱心で幅のある活動を続けています。

さらにスポーツの楽しさをみんなにという考えで婦人のスポーツ教室や町民体育祭（バレー）等にコーチをしたり各種行事の役員で協力と積極的にスポーツの発展に寄与しています。

さらに今後の発展を祈りたいものです。

川内地区がファミリースポーツ2回目

初めてしました
フリーテニス

日ごろの運動不足と身近かな地域での対話づくりにと川内地域の若ものが楽しいゲームやフリーテニス、卓球等に汗をながしました。

七月八日に本町で行われたファミリースポーツ指導者講習会に参加した川内の宮崎豊範体育指導委員と西平久雄スポーツ指導員の両氏が呼びかけ、八月三十一日午後八時から津奈木小体育館で町教育委員会職員の指導のもとに約二十名が参加しました。

今後こういう身近かな地域、家族づれで出来るスポーツを振興させていく計画です。

みなさんもどうぞ!!

よいしょ

本町の十八才から二十九才までの男子が津奈木小体育館や運動場、町民広場で九月十～十一日ナイタースポーツテストに挑戦、からだの健康診断を受けました。全体的に結果は良好でしたが、投げる力や持久力等に急に体力が落ちている人がいました。最後の体力相談も真剣でした。

赤崎・平国で婦人スポーツ教室

赤崎では卓球に引続きソフトボール教室が、平国ではバレーボール教室がナイターで20時間の予定。体協の指導員により両地区同じ日程で50名が参加。

基本から試合まで

10月28日 9時

体力つくり県民大会開催

体力つくり県民大会（水俣芦北地区）が本町で開催されます。

主会場の津奈木中学校で総合開会式が行われ、そのあと楽しい体操があります。

町民のみなさん！ふるってご参加下さい。

ご家族づれ大歓迎です

雨天時は11月4日に延期

申込〆切　教育委員会まで

○楽しいファミリー体操
○歩け歩け大会　以上、中学校　当日の朝　受付
○ゲートボール（総合グラウンド）　夫婦バレー（中学校）　○親子ソフト（小・中学校、町民広場）　○母子ビーチボールバレー（小学校体育館）　以上　10月18日正午

あなたも挑戦 体力テスト

からだの柔かさ

① 体の前まげ
- ゆび先がつく（70歳）
- 4本のゆびがつく（50歳）
- てのひらがつく（30歳）
- 足くびを持って顔が足につく（20歳）

からだの強さ

① 腕立て伏せ（男）
- うでまげが3回できる（70歳）
- 8回できる（50歳）
- 10回できる（30歳）
- 12回以上できる（20歳）

②閉眼片足立ち
- 目をとじて立つ。足はひざのうしろをつける。

5秒（70歳）　20秒（50歳）
40秒（30歳）　50秒（20歳）

③ 上体おこし
- 上向きにねて上体をおこす

1回できる（70歳）　3回できる（50歳）
5回できる（30歳）　10回以上（20歳）

津奈木の芸術 (九)

文部大臣賞を受けた藤本佐兵さんの書道

岡松　荘

文部大臣賞に輝く藤本佐兵氏の書

いままでは絵の紹介をしてきたが、たまたま藤本佐兵氏が日本総合書芸院展で漢字の部で文部大臣賞を受けられたのを機会に、その栄誉をお知らせかたがた書道をとりあげることにした。

藤本佐兵氏はいま人吉市に住んでいられるが、津奈木出身で藤本兵吾さんの弟さんである。

いつかの敬老会で詩吟をやられたことがあったが、その声の美しいこと、節まわしの絶妙であること、流れの変化の自在であることなどに聞きほれてうっとりとなったものである。

出品された書も氏の詩吟を聞くように美しい。

筆が詩吟の　に流れていく。小波を立てて石の上をすべる。時に岩にあたって岩を打ち、時に一本に集って一気岸をかけぬけ、ホッとひと息ついてひと休みの連続、書を見ていると楽しい。

才時記

青空のただ一ト色に
秋立ちぬ
小島政二郎
「いとう句会」

はらむ帆は
秋立ちそめる
力かな
大原其戎
（俳諧花の曙）

古屋の漏り (二)

津奈木民話

堀　一　雄

すると、そばに寝ていたばあさんが、いきなりしわがれ声で「そらァ雨漏りたい……なァ爺どん」と言う、甚七爺さんも「ほんに古屋ん漏りが婆婆で一番おとろしか」としみじみとした声で答えた。

聞いた孫は何んの事か分らなかったが、屋根裏の馬盗人も、うまやの隅にひそんだ狼も、これにはおどろいた。

俺よりもおとろしか雨漏りちゅうは、どげんワロかと思っているところえ又爺婆が、雨漏りのおそろしさを語り合っている。「爺さん爺さん、雨漏りの来れば、茶碗も鍋も桶もたらいも、おっとられて、飯も食われんもんなァ、あァあァ古屋ん漏りが一番おとろしか」と嘆く、「まこて雨漏りの来ると、逃げ先もなか、今夜も一漏り来るごたる」とつぶやく。

馬盗人も、狼もこれを聞いて益々おそろしさがこみ上げ体が、ぶるぶるとふるえ出して止らない。ひょっとして、爺さんが言うように、古屋ん漏りが来たら大変、今のうちに逃げ出さねばと、あわてて立ち上った馬盗人は、古板をふみ破って、下でがたがたふるえている狼の上に、ドサッと落ちた。狼はびっくり、「ワァッ！雨漏りの来たァ」と夢中になって、上に乗りかかって来た馬盗人を、はね落とそうともがく、馬盗人は、「しまったァ！雨漏りん上にひっちゃえた」手をはなせば、雨漏りに捕まって殺されると、力のあるかぎり、しがみつく、狼はこれをふり落とそうと、とんだり、跳ねたり、ころがったりしながら外へ馳け出した。馬盗人は、ふり落とされたら最後と、益々強く雨漏りの背中にしがみつく。狼は自分の住み家の、ゴト山も夢中で馳け抜けて行くうち、馬盗人のあごが木の枝に引っかかった。アッと手をはなした馬盗人は、そのまま木の枝にぶら下った。狼はそれも気づかず、馳けて馳けて馳け続けて、とうとう何里もはなれた大関山まで来た時、さすがに疲れて、ぶっ倒れてしまった。

名木紹介

シャシャンボ（セセッポ）

この盆栽は、辻の千々岩正嗣さんが、開拓当時原野から堀り取り、このように仕立てたものである。幹廻り80cmもあろうか、すがた、かたちはともかく、千々岩さんや他の入植者達が共に生き抜いてきた辻開拓30年の歴史を物語っているようであった。

肥後狂句

堀双岳選

（順不同）

きのきかん、二人の間に割り込うで
そわそわ、時計が気になる初デート　凡子

そわそわ、はじめてデートに誘われて
きのきかん、お茶はコップにつぎなはり　凡九郎

きのきかん、盃でのむお茶がよか
きのきかん、刺身ばっかり食わるるか
そわそわ、姉と妹見違えた　拙者

きのきかん、新婚さんに長居して
そわそわ、座ってお茶どんのむがええ　双岳

次題　三度目、くれぐれも、四句以内
十月二十日まで、中央公民館へ